

補装具の効果的なフォローアップ に関するシンポジウム

令和5年度厚生労働科学研究費補助金：
補装具費支給制度等におけるフォローアップ体制の有効性検証のための研究（22GC1010）

アンケート回答結果

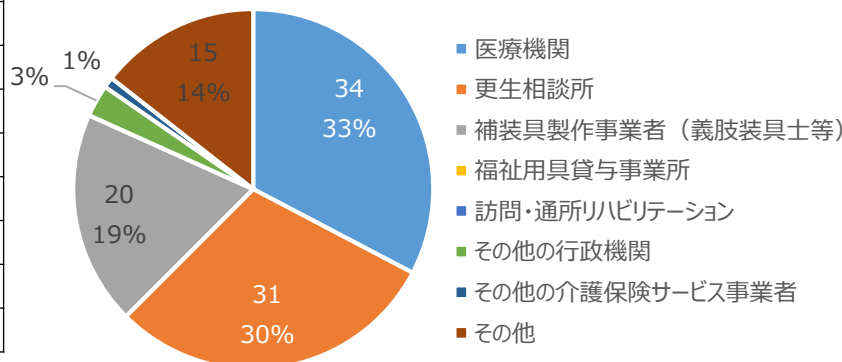
沢山の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

シンポジウム参加者：162名
(アンケート回答者：104名)

問1 あなたの所属機関は？

n=104

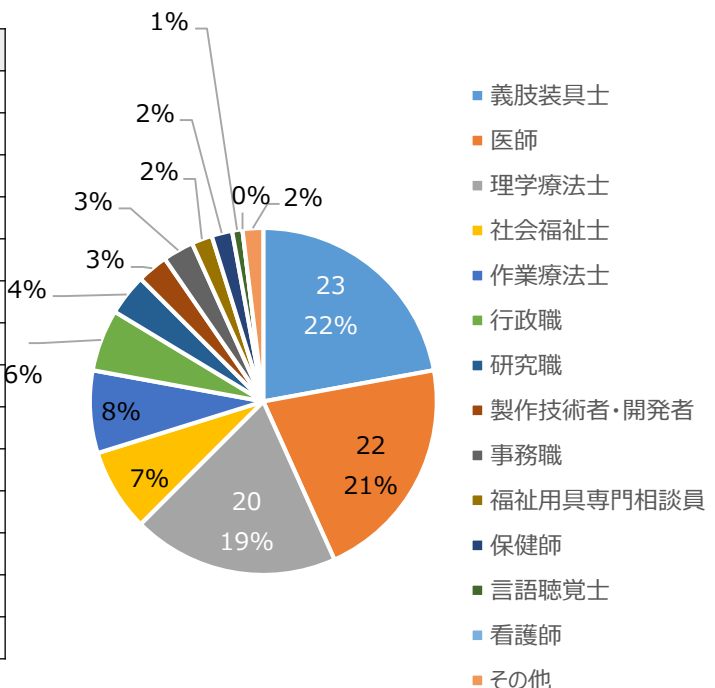
所属機関	回答数
医療機関	34
更生相談所	31
補装具製作事業者（義肢装具士等）	20
福祉用具貸与事業所	0
訪問・通所リハビリテーション	0
その他の行政機関	3
その他の介護保険サービス事業者	1
その他	15



問2 あなたの職種は？

n=104

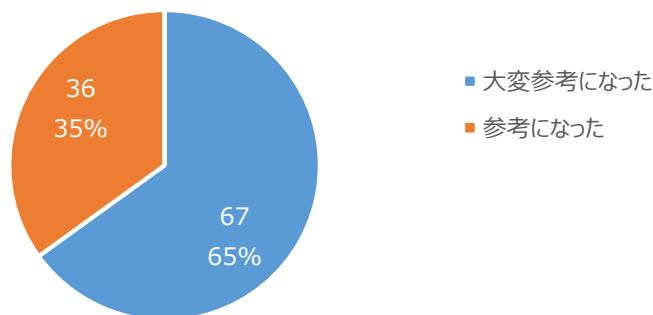
職種	回答数
義肢装具士	23
医師	22
理学療法士	20
社会福祉士	8
作業療法士	8
行政職	6
研究職	4
製作技術者・開発者	3
事務職	3
福祉用具専門相談員	2
保健師	2
言語聴覚士	1
看護師	0
その他	2



問3 今回のシンポジウムの内容について

n=103

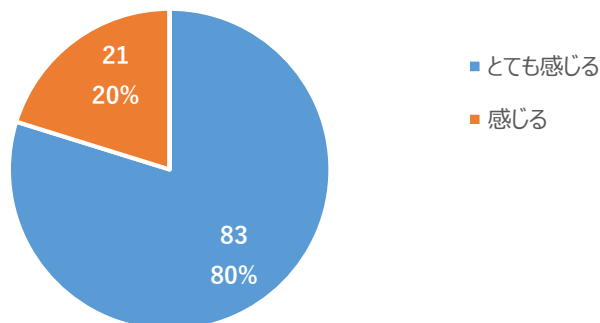
今回のシンポジウムの内容	回答数
大変参考になった	67
参考になった	36
あまり参考にならなかった	0
参考にならなかった	0



問4 補装具のフォローアップの必要性について

n=104

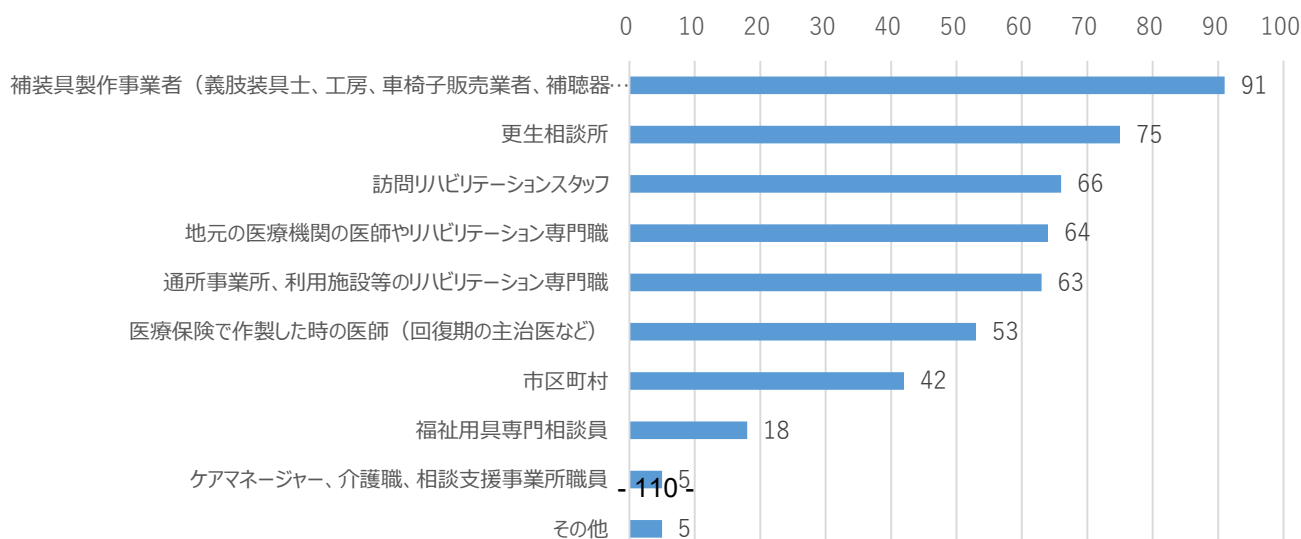
補装具のフォローアップの必要性	回答数
とても感じる	83
感じる	21
あまり感じない	0
感じない	0



問5 フォローアップを行うのが適切と思われる機関・社会資源（複数回答可）

n=104

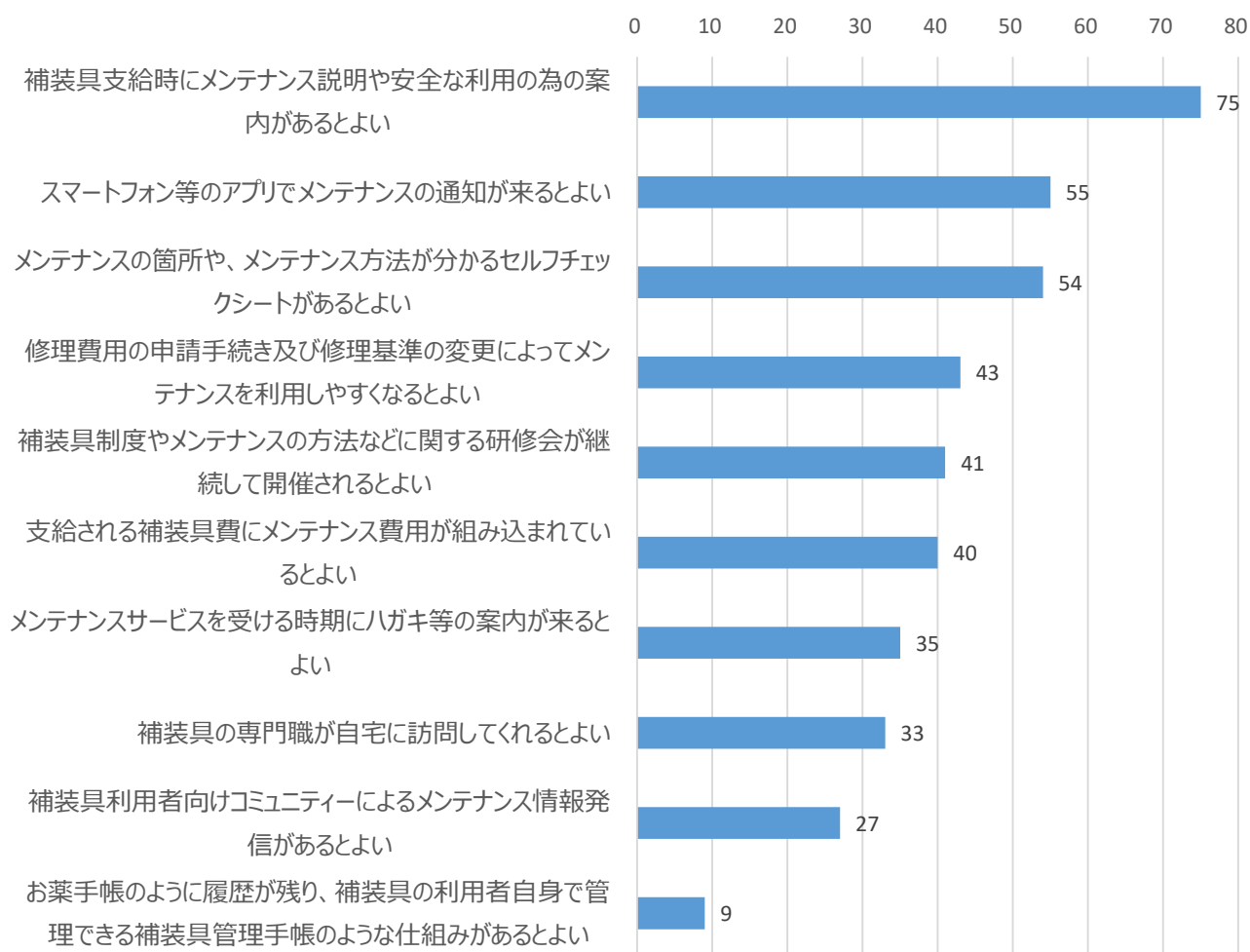
フォローアップを行うのが適切と思われる機関・社会資源（複数回答可）	回答数
補装具製作事業者（義肢装具士、工房、車椅子販売業者、補聴器販売業者等）	91
更生相談所	75
訪問リハビリテーションスタッフ	66
地元の医療機関の医師やリハビリテーション専門職	64
通所事業所、利用施設等のリハビリテーション専門職	63
医療保険で作製した時の医師（回復期の主治医など）	53
市区町村	42
福祉用具専門相談員	18
ケアマネージャー、介護職、相談支援事業所職員	5
その他	5



問6 どのような仕組みがあればフォローアップが推進されるようになるか（複数回答可）

n=103

フォローアップを推進すると思われる仕組み（複数回答可）	回答数
補装具支給時にメンテナンス説明や安全な利用の為の案内があるとよい	75
スマートフォン等のアプリでメンテナンスの通知が来るとよい	55
メンテナンスの箇所や、メンテナンス方法が分かるセルフチェックシートがあるとよい	54
修理費用の申請手続き及び修理基準の変更によってメンテナンスを利用しやすくなるとよい	43
補装具制度やメンテナンスの方法などに関する研修会が継続して開催されるとよい	41
支給される補装具費にメンテナンス費用が組み込まれているとよい	40
メンテナンスサービスを受ける時期にハガキ等の案内が来るとよい	35
補装具の専門職が自宅に訪問してくれるとよい	33
補装具利用者向けコミュニティーによるメンテナンス情報発信があるとよい	27
お薬手帳のように履歴が残り、補装具の利用者自身で管理できる補装具管理手帳のような仕組みがあるとよい	9



問7 フォローアップの仕組みについて具体的な内容等のアイデア

以下は、アンケートにて頂いたアイデアの一例です。大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。

#	フォローアップの仕組みについて具体的な内容等のアイデア
補装具の判定～引渡し	
1	判定の際に対象者の補装具の利用経過（新規・再支給）や補装具への理解度などの情報を分析して、フォローアップが必要なターゲットを絞ると良い。
2	市町村で支給決定する際に、フォローアップに関する案内チラシを同封すると良い。
補装具引渡し後(日常利用時)	
3	特に高齢者はスマートフォンを保有していない方もいるため、自治体からのハガキ送付によるフォローアップの通知があると良い。
4	補装具や障害の状態をアプリに登録し、アプリからメンテナンス通知を得る事が出来るようにすると良い。
5	補装具製作事業者が、修理が必要なのか適合の確認が必要なのか事前に判断できるよう、アプリからのメンテナンス通知に利用者が現状の補装具の写真を撮影して報告できるようにすると良い。 写真撮影の見本もアプリ上で提示されていると、どの箇所をどのぐらいの角度で撮影すればよいのか利用者もわかりやすく、補装具製作事業者も判断しやすいと考える。
6	遠方・地域格差を減らすための、ZOOMなどオンラインによる相談システムがあると良い。
7	通所リハ利用時やケアマネジャーによる自宅訪問時におけるチェック等、地域における取り組みがあると良い。
治療用装具の製作・日常利用時	
8	医療保険で製作した際に作り直しが必要なことをしっかりと伝え、壊れそうな時には市区町村に相談へ行くよう案内を行えるようになると良い。
体制に関するもの	
9	医師や専門職の配置等について、国でしっかりと要件を定め、全国の更生相談所のレベルの均一化を図ると良い。
10	補装具の不適合に気付ける地域のセラピストや、補装具外来に関わるセラピストを増やすこと、その間の連携を強固なものとするとう良い。
11	地元の装具業者や車いすメーカーなどと共にメンテナンスチームを組んで、巡回式の更生相談所遠征ツアーを全国で開催すると良い。
12	急性期、回復期で処方しても装具外来としてフォローアップできるように、個々の知識、チームとしての知識を高め、そのチームを持って長期フォローアップが出来るようになると良い。
13	義肢装具士を医療機関へ配置することで院内で製作からフォローアップまでの相談を対応できるようにすると良い。
14	生活状況を把握し、かつ適切な制度運用について、直接相談できる第三者機関がユーザーの身近に配置される仕組みがあるとよい。
教育・人材育成に関するもの	
15	補装具を適切に処方できる知識が医療職でも乏しいため、学習の機会を増やすと良い。
16	補装具利用者や訪問リハスタッフなどは、知識、経験不足から不具合に気づきにくい現状があるため、教育の機会があると良い。
17	ケアマネジャーや介護保険の認定調査員の研修の機会に、補装具に関する周知を図ることが出来れば良い。
18	補装具が生活の中でどのように使用されているか、利用者に近い支援者（ケアマネジャーや訪リハ、通所先など）が知る機会、気づく機会を増やせるよう、更生相談所がバックアップしていくことが必要と感じている。
費用に関するもの	
19	最低限のメンテナンスは初回の補装具製作費用に含み、それ以上のメンテナンスは自費でのオプションして利用者に選択していただくと良い。
20	補装具製作事業者による出張やメンテナンスにも利益が出る仕組みがあると良い。
21	医療機関への義肢装具士の配置を進めるために、調整や修理・メンテナンス等には報酬が出るようにすると良い。
22	補装具の診察を数ヶ月に一回と設定し、不具合をフォローアップすることを診療報酬上の最低限のルールにするとう良い。

問8 今後、補装具のフォローアップについて取り上げて欲しい課題

以下は、アンケートにて頂いた課題の一例です。大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。

#	今後、補装具のフォローアップについて取り上げて欲しい課題
治療用装具の日常利用(退院後)	
1	診療報酬と介護保険の制度の狭間で、補装具を使用している方の生活期のフォローの主導権の取り方について
2	治療用・更生用装具の切り替わり基準について
補装具の判定～引渡し	
3	要否判定（直接・書籍）の全国的な違いや、判定に伴う課題について
4	補装具業者の考えと障害者の考えとのミスマッチの解決について
事例把握	
5	補装具のフォローアップの一環として、装具手帳などを退院時に渡して、利用者に定着して効果的に運用出来た事例について（実際にうまく運用できている施設、補装具製作事業者）があれば話を聞きたい
6	各地の地域リハビリテーションの取り組み実績、成功事例や失敗事例について
7	補装具製作事業者の取り組みや更生相談所での取り組みなど具体的に実施できていることについて
8	フォローアップ体制や事業など成功事例（地区や自治体）について
9	医療機関や医療従事者との連携、地域リハビリテーションの取り組みなど、他の自治体ではどのような工夫をされているか等について
人材育成	
10	どのような内容をセラピスト、ケアマネジャー知ってもらうと効果的か。セラピスト、ケアマネジャーに補装具のことに興味を持ってもらう方法について
11	補装具フォローアップできる人材の育成と資格について
その他	
12	補装具の意見書を医療機関が作成する場合のコスト導入について（文書判定）
13	コストの具体的な算出と負担のあり方について 例）補装具製作事業者による自宅訪問や、遠方の施設・病院が個別対応する場合の交通費請求、利用者による自費負担など。
14	補装具における差額負担の範囲の拡大について
15	生活期リハ医療機関や更生相談所の処方・判定機能（システムを含めて）の向上（質的レベル）を図るための研究について
16	補聴器のアフターケア、フォローアップの推進における高齢難聴者の認知症予防について